

2015 Expert Collection

12月号通巻第375号



株式会社
エキスパート・オブ・ジャパン

我社の商品はすべて **Made in japan** 表示をしています。

〒334-0062 埼玉県川口市榛松 699

TEL 048 (281) 1322 FAX 048 (286) 0866

<http://www.exp-japan.jp> e-mail: exp.offjapan@jasmine.ocn.ne.jp

勤勉なメイドインジャパン スノーシューズシリーズ

日本の民具・ワカンジキを現代風にアレンジした雪上歩行器。前後を反らしたので急斜面でも上り下りが楽に行動できます。

- アイスバーンでもスノーシューズM、Lは逆さにつける必要はありません。アイゼンの下にワカン装着して行動してください。
- いずれもフレーム直径は 22mm×1mm厚。爪はステンレス製。丈夫さと、靴につけやすい固定方式が人気で国内シェア随一。サイズが大きいほどに雪に対する浮力が増します。
- M、Lは鉄製 JIS トラスト中空 4×27 3 価クロメートリベットを採用。世界一耐久性の強い雪上歩行器です。
- M、Lとも爪高は 49mm。ベルトは赤色。
- 固定バンドはユーザーが簡単に調整できるフリーサイズ。摩耗したらユーザーが交換できます。

強いぞニッポン

◆スノーシューズM(SN3)

税込価格:¥12,690(本体価格¥11,750)

◆スノーシューズM(F)フラット型(SN17)

税込価格:¥12,420(本体価格¥11,500)

- DATA -

材質:A6063 アルミ製。爪はステンレス製。
爪高:49 mm。カラー:シルバー。バンドは赤色。
サイズ:410 mm×182 mm 重量:770g

だんかつニッポン

◆スノーシューズL(SN4)

税込価格:¥13,068(本体価格¥12,100)

◆スノーシューズL(F)フラット型(SN18)

税込価格:¥12,852(本体価格¥11,900)

- DATA -

材質:A6063 アルミ製。爪はステンレス製。
爪高:49 mm。カラー:シルバー。バンドは赤色。
サイズ:441 mm×182 mm 重量:780g



平成 27 年夏期の富士山登山者数の中間報告 (第 2 回) 発表

前回に引き続き今年の富士山・登山者数に注目してみたいと思います。前回は7/1～7/31の1ヶ月の集計結果でしたが、2回目の今回は夏のピーク7/1～8/31の2ヶ月の集計結果が出ています。

今回調査期間(7月1日～8月31日)の富士山8合目における登山者数の合計は約20万人で、昨年の同期間と比較して約4万人減少しました(昨年比-16.1%)。

※環境省では、富士山の登山者数を把握するため、平成17年から各登山道の8合目付近に赤外線カウンターを設置して登山者数調査を実施しています。(環境省 WEBサイト参照)

表 1：平成 17 年以降の富士登山者数の比較 (7 月 1 日～8 月 31 日) (括弧内は前年比)

	H17 年	H18 年	H19 年	H20 年	H21 年	H22 年	H23 年	H24 年	H25 年	H26 年	H27 年
全登山者数 (人)	200,292	221,010	231,542	305,350	292,058	320,975	293,416	318,565	310,721	243,662	204,447 (84%)
吉田ルート	108,247	119,631	132,980	172,369	169,217	184,320	165,038	189,771	179,720	141,996	117,267 (83%)
須走ルート	25,416	30,536	33,394	52,323	43,861	48,196	40,179	35,577	36,508	29,109	21,431 (74%)
御殿場ルート	8,667	9,232	11,157	16,624	11,390	9,845	15,758	15,462	17,709	15,503	14,296 (92%)
富士宮ルート	57,962	61,611	54,011	64,034	67,590	78,614	72,441	77,755	76,784	57,054	51,453 (90%)

図 1：富士山の全登山者数及び各登山道別登山者数の比較 (7 月 1 日～8 月 31 日)

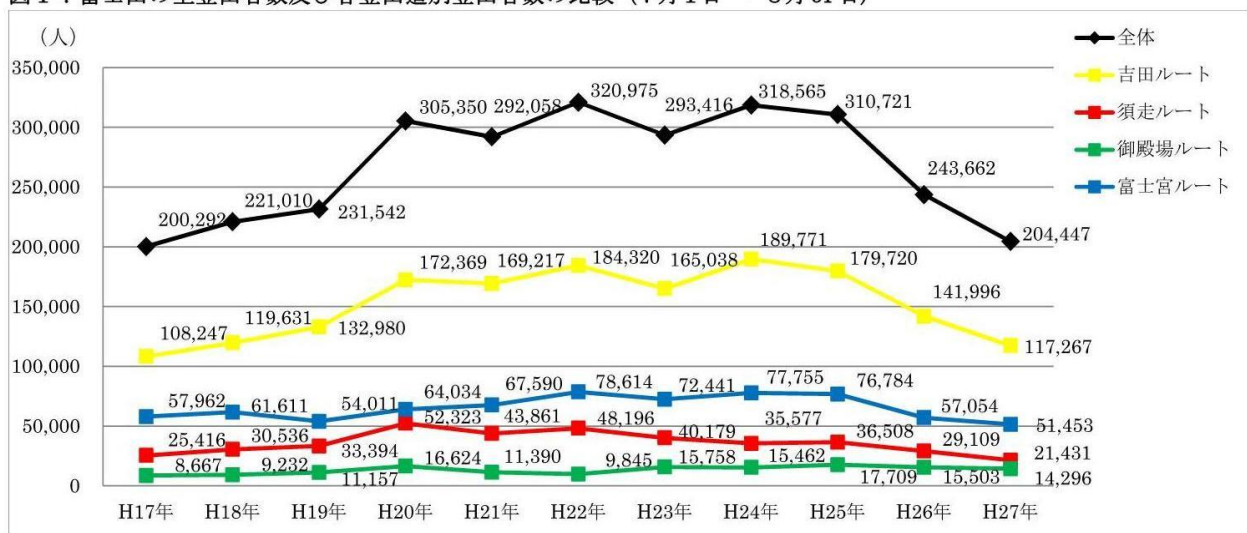


図1:富士山の全登山者数及び各登山道別登山者数の比較(7月1日～8月31日)

予想はしていた事ですが、やはり今年の夏は大幅な登山者数減少という結果になりました。ここ 10 年近くで最も少ない数値となっています。登山業界にとっては夏の大イベントだけに、この影響は多大だった事が予想されます。登山者数回復に向け、来年から実施される「山の日」効果に期待したいところです。

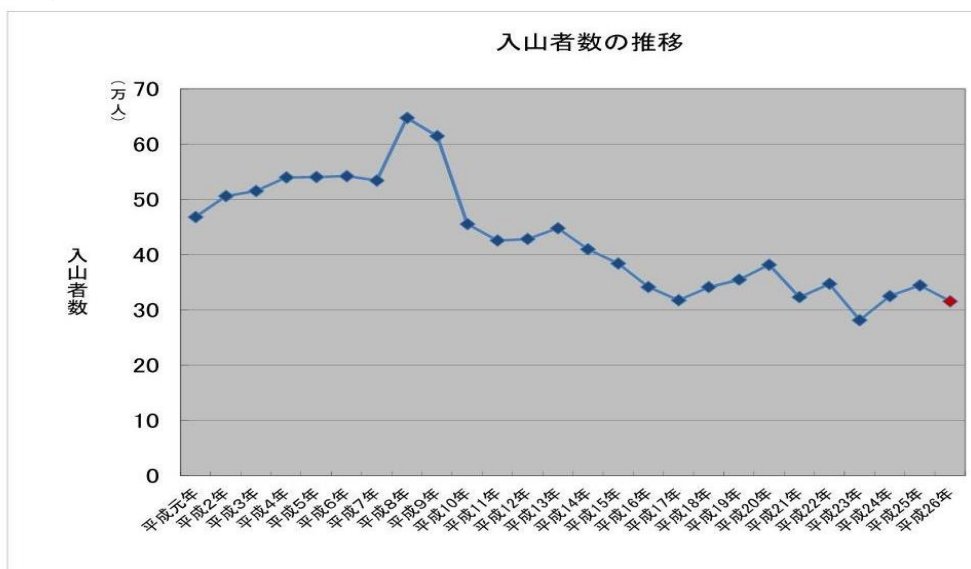
また登山者数以外の今年の傾向の一つとして、入山料の協力率も場所によって変化したようです。入山料は、富士山の環境保全や安全対策のために、登山者から1人1千円の協力を任意で求めるものですが、山梨県側では導入初年の昨年に比べて、約4300万円の減少となり、協力率は42.6%で、昨年の55.8%から13.2ポイント下がったと言う結果が出たとの事。逆に静岡県側では、入山料の協力率は、8月31日時点で47.3%と昨年同期から6.2ポイント上昇したようです。協力率の落ちた山梨県では、徴収する場所にゲートなどを設け、登山者を受付場所に誘導する工夫をする方針などを検討中のようです。任意の協力費なので、アピールの仕方や取り組み次第で効果が変わってくるのでしょうか。

ここまで、富士山の登山者数を見てきましたが、その他の有名な山岳エリアの入山者数も少し調べてみました。

一時は夏の登山イベントの代名詞でもあった、尾瀬のデータを見てみましょう。こちらは昨年の平成 26 年までのデータとなります。尾瀬は以前のピークと比べると、半減しているものの、ここ 10 年の入山者数は 30~35 万人の数値を上下しており大幅な変化は無いようです。極端な人気集中は終わり、ある一定の入山者で落ち着いているようです。

(環境省 WEB サイト参照)

尾瀬国立公園入山者数推移



それに対し、下記の世界自然遺産の白神山地は年々入山者数が減ってきています。表内の記録者数内だけでも、H.16 と比較すると H.26 は 4 分の 1 までになっています。もともと東北の遠方地である事もあり、世界遺産での注目が過ぎた後は、減少傾向が進んでいるのかもしれませんが。また場所によっては大雨の影響で土砂崩れとなり、閉鎖されていたエリアもあるようです。

白神山地世界遺産地域及び周辺地域入山者数集計表(平成16年度～平成26年度)

別添資料3
東北地方環境事務所

年	①暗門の滝		②高倉森入口		③津軽峠		④天狗峠		⑤一ツ森峠		⑥崩山		⑦白神岳	
	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数
H16	57,355	159	309	163	2,125	163	919	163	135	163	1,208	164	3,750	164
H17	※ 57,369	136	439	158	2,322	154	665	154	90	154	1,092	154	4,056	158
H18	※ 53,360	131	396	154	1,839	154	616	140	142	140	※ 1,253	160	4,766	160
H19	※ 52,323	154	469	164	2,383	164	※ 619	164	198	162	1,105	162	4,476	168
H20	33,769	160	347	179	2,128	160	※ 588	152	119	152	969	182	※ 3,798	182
H21	42,914	163	363	163	2,147	163	646	160	157	149	945	187	4,273	187
H22	43,028	158	325	178	1,425	166	469	160	122	160	743	185	3,280	185
H23	※ 25,471	130	264	184	1,148	169	369	163	116	163	897	188	※ 3,132	188
H24	23,336	105	252	178	1,331	160	325	145	85	145	905	178	※ 2,119	178
H25	18,201	91	256	177	1,118	167	361	127	57	127	876	180	2,946	180
H26	9,625	124	165	117	※ 337	111	※ 40	47	24	47	1,065	185	2,610	185

年	⑧権石山		⑨二ツ森		⑩小岳		⑪岳岱		⑫大川		合計 入山者数
	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	入山者数	計測日数	
H16	1,384		5,133	165	544	162	8,545	164			81,407
H17	423	150	4,831	158	406	152	9,614	156			81,307
H18	557	141	4,053	151	320	137	7,138	150			74,440
H19	540	154	※ 3,532	158	※ 339	138	8,566	170	721	157	75,271
H20	414	154	3,800	161	619	161	6,496	173	847	179	53,894
H21	441	162	※ 2,710	159	※ 462	161	※ 5,133	164	665	153	60,856
H22	503	149	2,269	160	434	152	6,598	174	※ 192	159	59,388
H23	429	155	2,312	161	471	161	5,097	172	431	119	40,137
H24	266	140	※ 2,854	158	390	163	4,556	162	950	162	37,369
H25	260	120	3,488	154	80	65	948	44	575	158	29,166
H26	109	44	4,386	159			746	32	627	166	19,734

注 1) 表記されている数字は、機器によって測定された数字であり、必ずしも実際の入山者を表したものではありません。
 2) 平成12年度から平成15年度までの間も調査を行っているが、測定機器の種類を変更しており比較できないため平成16年度からのデータのみ使用している。
 3) 機器の不具合等により計測できない期間があり、実際の入山者数より少ない値には「※」と記した。
 4) ⑫大川は、平成19年度から新たに設置した。
 5) 過去の月ごとのデータは白神山地世界遺産センターのホームページに掲載している。

富士山を中心に 2 回にわたり登山者数の推移を見てきました。近年の登山市場の変化とも関連を感じる内容であったかと思えます。

文責:松田次郎

やまのかたりべ

第61章 表妙義山 相馬岳

以前関越道で長野へ向かった際、カッコいい山々が目の前に広がった。その名は妙義山。いつか行きたいと思い数年が経過。今回その念願がやっと叶い、表妙義山の一部、相馬岳に繰り出した。

<ポイント1>

上毛三山の一つに数えられ、日本三奇勝の一つである。表妙義山は、白雲山、金洞山、金鷄山の三峰からなり、山容は非常に険しく、石門群、大砲岩等、奇岩怪石が林立している。春の桜、秋の紅葉の季節は美しく、まさに天下の名勝である。石門をめぐるコースは人気の登山コースで、奇岩怪石を間近に見ることができる。(富岡市観光おもてなし課、リーフレット参照)

<ポイント2>

表妙義と裏妙義

白雲山、金洞山、金鷄山を中心とした一帯を表妙義と呼び、鳥帽子岩、赤岩、丁須の頭などを裏妙義と呼ぶ。どちらも非常に急峻で複雑な地形をしている。

夫が運転する車で出発。道中、いろいろ会話が弾み…カーナビが指し示す「松井田妙義IC」の出口を過ぎてしまう。「ここで降りないの?」と会話を中断して問いかける私に、夫「!!!もっとはやく言ってよ～」と車の中で叫ぶ。いくら叫んでも途中下車は出来ない。一時間のロス…。カーナビの意味全くなし。次のインターで降り、また高速に乗り戻る…なんて無駄な時間と高速料金…。しかし、これで表妙義と裏妙義を高速より一望。カッコいい。

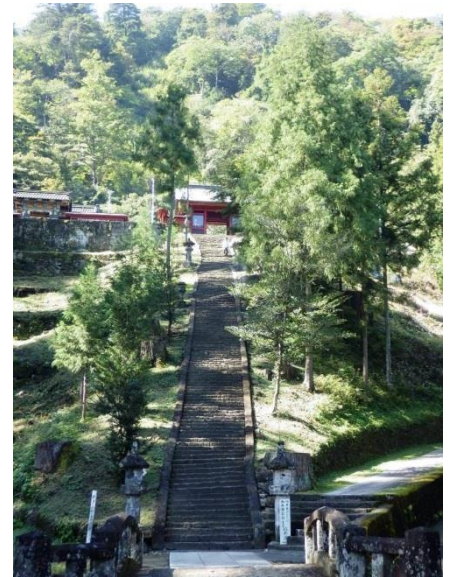
10時25分 駐車場到着

いくつか駐車場があるなかで、富岡市営登山者用駐車場を利用。思ったより駐車している車が少ない。身支度して早々に出発。近くに道の駅「みょうぎ」があり、ここでお手洗いを済ませてからの出発をお勧め。登っている道中、お手洗いは無い。

10時35分 登山口到着

妙義神社を通過し、妙義神社南門をくぐり登山口へ。登山口の看板にはクマ出没掲示がある。EOJの熊鈴を装備し出発。

相馬岳に向かうまで、いくつかコースがあり今回は「大」文字経由で登ろうと話していたものの、早い地点で違うコースに進んでいた様子。「大」文字は遠くからちらちら眺めながら歩く事になる。最終的には目指す相馬岳に到着するので、戻る事はせず二本杉茶屋跡を通過するコースへ。



(妙義神社への長い階段)

登り始めは林道の中を進む。緩やかな登り、空気はすっかり秋の空気。登山者もなく、静かな道。ドングリが上から落ちてくる音にドキッと…先頭を歩く夫もたまに周囲を確認。微妙な物音に神経過敏になる。

11時05分 二本杉茶屋跡到着

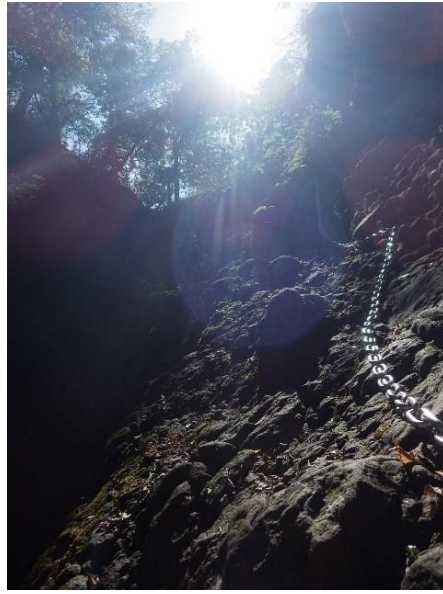
昔茶屋があったと言われないと普通に通り過ぎてしまいそうな場所である。遠くに見えた「大」の文字が徐々に近づく。ここから、少しずつ鎖場出現。

<ポイント3>

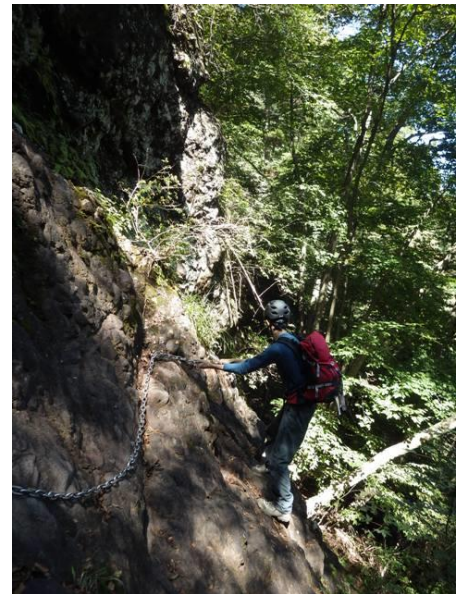
その昔、白雲山の「大」の字は白雲山の中腹にあって中山道を通る旅人の目印になっていたそうだ。妙義大権現の「大」の文字。(富岡市観光おもてなし課、リーフレット参照)



(見晴し台より)



(鎖場、下から見上げる)



(トラバース)

しばらくいくと「見晴し台」という標識が現れる。眼の前にはそそり立つ岩肌が…迫力ある。次のポイント「辻」という場所に到着するまでいくつか鎖場を通過。トラバースする箇所も有り慎重に足を進める。アスレチックの様でなかなか楽しい。しかし、慎重に！！頭にはしっかりヘルメット着用。

11時35分 辻に到着

岩には「↑キケン 上級」と記されている。資料などでもこの辺りで、滑落死亡事故数件と記載されている。

水分補給し出発。

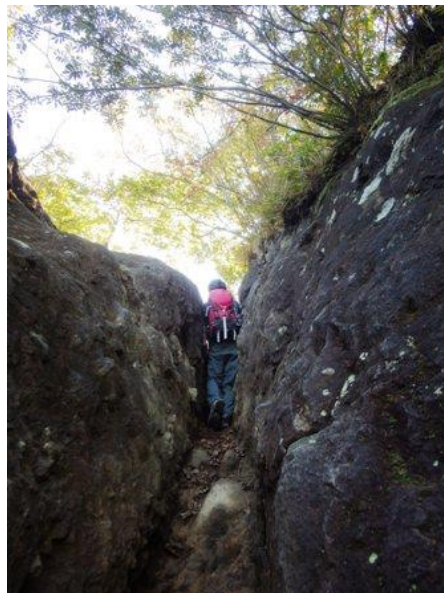
少し行くと奥ノ院という岩の祠が現れる。コースから少し外れるが足を運んでみる事に。斜めになって崩れかけている石段を登り、さらに人工の梯子を上る。目にしたのは石碑といくつかの石仏。そこから見える下界の景色を修業の合間に目にしたのであろうか。神聖な雰囲気漂う。

元の道に戻る。ここからは岩場を直登。上を見上げる…長い岩場で、鎖がしっかり設置されている。地図上では30メートルの鎖場と記載されているが、実際目にするともっとあるのではないかと感じる。腰が引ける…。

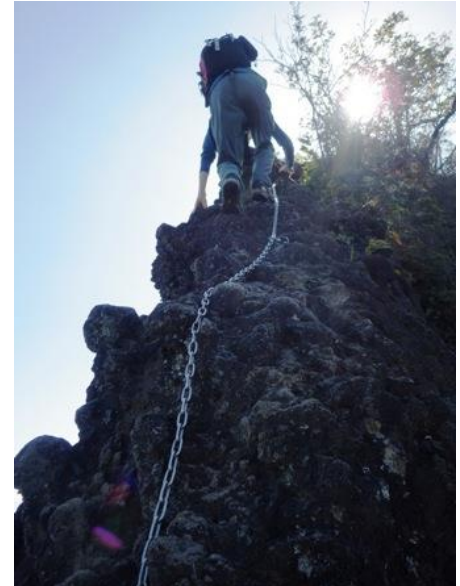
その後も樹林帯の中の狭い尾根を登り、人工的に作られたであろう石の階段を登る。



(見晴しポイント手前の鎖場)



(狭い岩の間)



(キレット)

見晴しに到着して一息つく。パラグライダーを発見。気持ちよさそうに空を浮遊している。

次のポイントとなる大のぞきまで狭い岩の間を通過し、またもやいくつかの鎖場を通る。ビビリ岩と地図上で記載されているところは3連の鎖が設置してある。岩がある程度つかみやすい形をしているのでありがたいが、やはり確保できない状態では怖い。途中キレットもありなかなかの難所。確かに、ある程度の筋力と体力が必要な山だと改めて認識する。難所が多い山のせいかすれ違ったパーティーなし。



(大のぞきから天狗岩)

13時10分 大のぞき到着
大のぞきには御嶽三社大神社の石碑が祀られている。
そして今度は一気に下る。地図上では10m×2、30m×1の鎖場と表記されている。下を見ると足がすくむ。
最近感じていたことだが、以前に比べ私は高所が苦手になってしまったようだ。
ここで先行に行く1パーティーに会う。先パーティーが下り終えたのを確認し、自分たちも降りる。ほぼ懸垂下降の様。ここは鎖がついているからある程度安心して降りることが可能だが……ロープワークの経験をもっと積まねばと思う。



(長い鎖場)



この後、次の通過点となる天狗岩までもところどころに難所があるので気を抜かず歩く。樹林帯の中を歩く木々の切れ目から景色がちらり楽しめる。

13時45分 天狗岩通過

天狗岩の標識は樹林帯の中にある。天狗岩からタルワキ沢のコルまでは樹林帯の下り道となる。タルワキ沢コルに到着。今回はこのルートを下山するが、相馬岳に向かうため通過。相馬岳までは樹林帯の中の急登りとなる

14 時 10 分 標高 1,104m 相馬岳山頂
紅葉少々始まっている。
視界はよかったが遠くの山々には
もやがかかり山の稜線はきれいに見えず…
ラーメンでも作ろうとバーナーを持ってきていたが
あまり食欲がわかない。行動食をサクッと食べ
2 人共ば〜っと過ごす…。

静寂を破るようにカサカサ鳴る葉の音に時より驚く。
あわててザックにつけた熊鈴を響かせる。

14 時 25 分 相馬岳山頂出発

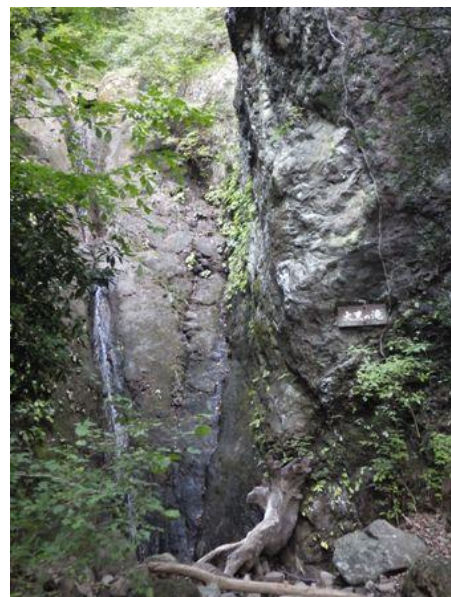


(EOJ のプチベル 奥の山は金洞山)

14 時 35 分 タルワキ沢のコル到着
ここからタルワキ沢出会いまでガシガシの下りとなる。途中自分も足を滑らす。気を抜いてはいけない。
道中、鎖場二箇所。丸太で造られた階段を下りタルワキ沢出会いを通過、第二見晴らしに到着。
しばらくすると沢にかかる鉄橋を渡り大黒の滝が現れる。水量が少なく迫力に欠ける。
その後第一見晴と呼ばれる場所に到着、登り始めた地点に戻る。

16 時 登山口到着
標高 1200m に達しない山だが、岩場が多くキレッとドキドキ。
鎖場から下を見下ろすときの緊張感。
全て含めて楽しい登山となった。
久々に山を歩いた夫、早々に筋肉痛なのか数時間後に足が
痛いと言っていた。

表妙義、裏妙義、全て歩いてみたい。
また訪れたい山が一つ増えた。
桜の時期、紅葉の時期も訪れたい。



文責:松田留美

(↓ 遠くからみた大のぞき ・ ↑ 大黒の滝)

パーティー:(松田次郎・留美)

10 時 35 分	登山開始	
11 時 05 分	二本杉茶屋跡	着
11 時 35 分	辻	着
13 時 10 分	大のぞき	着
13 時 45 分	天狗岩	着
14 時 10 分	相馬岳山頂	着
14 時 25 分	相馬岳山頂	発
14 時 35 分	タルワキ沢コースの分岐	着
15 時 45 分	大黒の滝	着
16 時 00 分	登山口	着



初冠雪の声が各地から聞こえて来るようになりました！！
本格冬山シーズンに向けてクロモリⅡシリーズのご紹介。

信頼のメイドインジャパン

クロモリ8PⅡ～14PⅡ

様々な登山靴にフィットし、軽量で頑丈なアイゼンシリーズです。



8PⅡ～14PⅡサイズ調整時の注意

8P～14Pのサイズ調整をする際の注意を明記します。

○靴サイズより緩めにサイズ調整をしないで下さい。8P～14Pは靴の前後に隙間がないようサイズ調整可能です。サイズ調整を緩めにすると、行動中アイゼンが左右に動き、結果ナットやボルトの緩みの原因となります。2014年春より、安心・安全向上のため、緩み防止の六角ナットをつけてダブルナットにしてありますが、8P～14Pは靴の前後に隙間を無くすことで、アイゼン全体の緩みを防げます。

○サイズ調整時にボルトをしっかり締め付けない場合は論外です。ジョイントを長め(緩め)にサイズ調整をするとアイゼンが左右に振られボルトを紛失します。

みんなのニッポン

クロモリ8PⅡ set (ST11)

クロモリ鋼製。黒色電着塗装。

全長/320 mm～188 mm。

重量/570g。

税込価格/¥18,900

(本体価格¥17,500)



誇りのニッポン

クロモリ10PⅡ set (ST12)

全長/325 mm～215 mm。重量/660g。

その他の仕様8Pと同じ。

税込価格/¥20,088

(本体価格¥18,600)



物造りのニッポン

クロモリ12PⅡ set (ST13)

全長/325 mm～230 mm 重量/690g。

その他の仕様8Pと同じ。

税込価格/¥20,520

(本体価格¥19,000)



すごいぞニッポン

クロモリ14PⅡ set (ST14)

全長/325 mm～230 mm。重量/705g。

その他の仕様8Pと同じ。

税込価格/¥22,464

(本体価格¥20,800)

